

ニュース

九州新幹線 全線開業まであと1年

レールつながり、開業へスパート



レール締結式で締結装置のボルトを締める蒲島郁夫知事（中央）、右側は三日月大造国土交通大臣政務官、左側は野田毅衆議院議員



総額8920億円を投じてつながった九州新幹線のレール。1年後、熊本も高速交通移動の時代を迎える



沿線自治体関係者ら集い、熊本駅で九州新幹線（博多・新八代間）レール締結式



レール締結後、鉄道・運輸機構の外山寛宇鉄道軌道建設所長の指揮で新幹線軌道を走行する「モーターカー」（軌陸車）

1998年3月の着工から12年。九州新幹線・博多・新八代間121kmのレールが1本につながり、沿線自治体関係者などが出席してこのほど、熊本駅の新幹線ホームで「レール締結式」があった。式典では、蒲島郁夫知事が、「九州新幹線計画が始まって36年。日本中が新幹線で結ばれるのはすばらしいこと。新幹線開業で九州全体の経済力が向上し、幸福量が高まると期待している」と祝辞を述べた。レール締結では、三日月大造国土交通大臣政務官ら約50人が、枕木の役目を果たす軌道スラブとレールをつなぐ金色のボルトを、紅白のテープが巻かれたレンチで締め上げ、点検確認と清酒による清め、テープカットの後、資材運搬用車両が新幹線レールの上をゆっくりと走った。



堀内製油の農業生産法人が栽培する吉無田高原のナノハナ（ナシキブ）



雑穀卸売大手ベストアメニティのニンニク畑（小国町）

広がり見せる農業参入

高まる関心 多様な参入形態 "果実" 求め試行錯誤

熊本市のコンクリート2次製品メーカー不二高圧コンクリート(株)は、農業参入を視野に韓国製の植物工場を試験導入したが方針を転換。コンクリート2次製品製造で磨いた管理ノウハウで植物工場システムの販売を目指している。



不二高圧コンクリートの植物工場で生産されたミニトマト



土木100%の矢部開発はシイタケの菌床栽培に乗り出した